

写真中央のハングル文字は上から「ようこそ」「李任仙教授」「磯子地域ケアプラザ」 人物右から2人目が李教授



昨年11月22日（火）韓国国際大学の李任仙教授が磯子地域ケアプラザでデイサービスを見学されました。社会体育学の教授として、日本の社会福祉の現場と体育事業施設の見学など社会・教育面の視察のために来日された李教授の質問の合間に、ケアプラザ職員からも韓国の現状をお尋ねしましたので、ここに一部を紹介いたします。

— 日本は介護保険制度が始まってから10年がたち、福祉を取り巻く環境も10年前と大きく変わってきている。韓国でも介護保険が始まっているが詳しく教えて欲しい。

⇒ 親を敬う儒教精神にそぐわないように思われるかもしれないが、都会に若者が集まる傾向が止まらず、第三者（他人）による介護が避けられない状況になったため、2008年に介護保険が施行され、ここ数年で福祉施設が急増した。短期間で一気に高齢者福祉事業が拡大したことで、準備不足による専門職の人手不足・サービス内容の整備が今問題となっている。ただ一方で、介護に携わる人材を輩出するべく大学の福祉系学部・学科が増え、国がそれらに投資、支援することでハード・ソフト両面で補う環境が整い始めている。介護の資格を取得し、親を介護する場合でも国から手当が支給される。日本は韓国と家族観が似ている部分があるため、高齢者介護は日本から学ぶことがたくさんある。実際、多くの大学の福祉学科では卒業に際して、福岡県の高齢者福祉施設で研修をさせてもらっている。

— デイサービスの様子をご覧になって…

⇒ 韓国では入所施設は国費でどんどん建っているものの、介護する側が不足している状況下で、デイサービスといった「通い」の介護サービスにはまだ追いついていない。どういうものなのかと、この視察を楽しみにしていた。来てみると利用者の方が洋裁をされていて驚いた。洋裁やぬり絵など積極的にレクリエーションを楽しんでいて素晴らしい。また建物は大きくて明るいうえ、様々な気配りがなされ、整備も大変だと思う。ここに至るには試行錯誤を繰り返し、努力を重ねられたことでしょう。

通訳を介しての短い時間でしたが、内容の濃い有意義な時を過ごせました。

知って楽になる介護の話 第11回 ～ 移乗編③ ～

今回は、ベッドから車いすなどへ移乗するときに、ほぼ全介助が必要な方への移乗介助方法をご紹介します。全面的に支えようとするあまり、移乗する際に前から抱え上げて介助したり、時には足がつかないように完全に吊り上げて介助するケースが後を絶ちません。このような介助方法は、介護する方の腰痛を引き起こし、介護される方の転倒事故や体を引き上げるにより起こる摩擦で床ずれが発生してしまいます。

ここに挙げる例は一例であり、介護する方・される方の体型や技術で介助の方法は変わってきます。福祉用具の利用も含め、一人ひとりに合った介助方法を考えることがとても大切です。



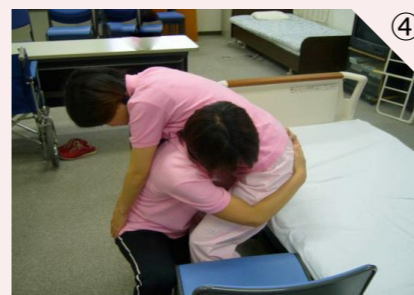
① 車椅子等をベッドに対し、直角に近い角度で置きます。介助者は膝立ちになり要介護者の膝をお腹でブロックします。介助者は、移乗する方向へ片足を立てます。



② 介助者のお腹に要介護者の膝をあて、膝が崩れるのを防止します。介助者の身体は進行方向側（右側）に来るようにし、左手はお尻を包むように添えます。



③ 右手もお尻に添え、要介護者の方に前かがみを促します。



④ 要介護者に前かがみを促し、お尻を浮かせます。



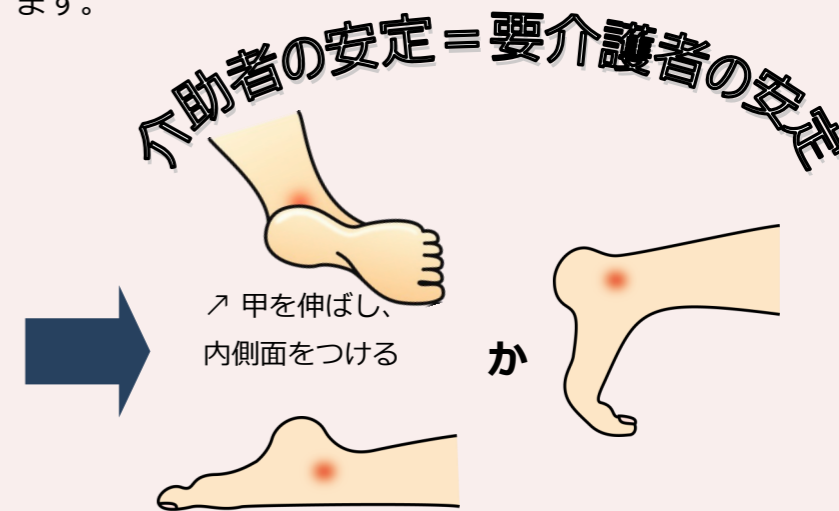
⑤ 車椅子の方向に誘導します。



⑥ 着座させていきます。



⑦ 椅子に深く腰かけます。介助者の安定のため、足の甲を伸ばすか、それが難しければ立てるのがポイントです。



* ここでは足の甲の状態を示すために素足のイラストを載せています。